

箱崎まちづくり新聞

発行者 箱崎まちづくり協議会
事務局
電話 651-7708
(公民館)

平成14年度箱崎まちづくり協議会会長

就任のご挨拶 藤野良一

今年4月26日、まちづくり協議会総会において、誠意と決断実行をモットーとしてその任に当たられておられました戸次前会長の後任として就任いたしました。戸次前会長の舵とり役としては力不足かと存じますが、精一杯がんばりますので皆様のご支援を切にお願いいたします。

本まち協は、設立から6年目を迎えます。やゝもすると運営のマンネリ化が心配されましたが、執行体制が若返り、はつらつとしております。一昨年、福岡市のコンサルタント派遣事業の適用を受け、客観的な見地から箱崎のまちの問題点を探る

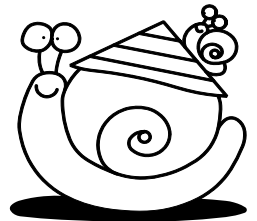
ことができるようになりました。この事業を活用して校区住民の皆さまにまちのあり方について問題提起をしながら、皆さまの意見を集約し、問題点を共有しつつ、その処理解決に当たりたいと存じております。

いま、九大移転跡地対策、JR鹿児島本線の高架化と新箱崎駅、幹線道路、商店街活性化、通学路の整備、少子高齢化に伴う福祉対策等問題が山積みしてありますが、皆さま一人一人の声を大切にしながら、コンセンサスに務め、将来像の方向性に着手しますので、皆様方の積極的な参加をお待ちいたします。




平成14年度 新役員紹介 (よろしくお願ひいたします)

役職	氏名	町名
会長	藤野良一	汐井2丁目
副会長	古田清	上社家町
〃	古田鷹治	下社家町
〃	井上勲	網屋立筋
監査	戸部田巖	本馬場町
〃	橋本幸雄	網屋本町

役職	氏名	町名
事務局長	箱嶋次雄	宮前町
事務局次長	藤野重久	白浜町
〃	坂本博規	宮小路本通
〃	横田茂代	汐井2丁目
会計	崎村温巳	汐井1丁目
書記	深見由紀子	網屋立筋



★ 昨年度の5部会が統合。新しく3部会になりました。

部会名	部会長名・副部会長名	昨年度の部会	平成14年度 事業計画
くらし交流 部会	部会長 藤野紀代子 副部会長 小田昭壽 山口毅	企画福祉部会 地域交流部会	<ul style="list-style-type: none"> 福祉講演会 ケアビックス コミュニティ情報版 花いっぱい運動 コミュニティばんこづくり 花づくり教室 ふれあい広場及びイベント 
歴史・文化 部会	部会長 井上俊男 副部会長 山崎康弘 藤野晴正	歴史文化部会	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内ボランティアの育成並びに案内人派遣 箱崎誌(郷土史)作成のための資料収集 
まち企画 部会	部会長 若狭英次 副部会長 三宅文照 光安雅弘	九大跡地部会 まち整備部会	<ul style="list-style-type: none"> 基幹道路の整備対策 九大移転跡地対策の論議 中学生による九大跡地利用計画 

★ 8月3日(土)箱崎校区「夏祭り」開催いたします。校区の皆さまの参加をお待ちしています。

★『夏祭り』イメージソング 決定！

3月から募集しておりました「箱崎夏祭り」イメージソングに多数ご応募いただきましてありがとうございました。夏祭りイメージソング選考委員で選考いたしました結果、御茶屋跡の増山睦芳さん作詞作曲の『歌おう！踊ろう！はこざき』に決定いたしました。おめでとうございます！

ただ今CD化に向け準備を進めています。振り付けをして、夏祭りの総踊りで校区の皆様にご披露いたします。

★ 大分県天瀬町と箱崎の交流が始まりました。

天瀬町はWカップサッカーのキャンプ地として、一躍全国的に有名になった中津江町と同じく大分県日田郡に所在し、筑後川沿いの日田市に隣接する「花と温泉と祈り」の町です。

箱崎にない自然との体験が出来ないかと考えていましたところ、箱崎に在住の御田マキ子さんが、天瀬出身であったこともありまして、天瀬町との交流を箱崎まちづくり協議会の活動とすることにしました。

☆ はじめての交流

3月24日に「天瀬町再発見」という企画に早速11名で参加しました。今までは、温泉と高塚地蔵尊ぐらいいしか知りませんでしたが、天瀬町の素晴らしい景色と自然のふれあいは忘れられません。

当日は町内で一番高い亀石山山頂で「どうだんツツジ」を植樹したり、町内の散策など楽しい一日でした。

特に、湯ノ見岳から眺める展望（万年山、由布岳、湧蓋山、九重連山、阿蘇の外輪山、眼下に小国の杖立温泉街）は絶景でした。

☆ 今後の交流について

これから双方の交流を協議していくこととなりますが、子どもたちに自然体験をさせたり都市と農村の交流などを進めていきたいと思えます。まず手はじめに、今年の『夏祭り』には天瀬町の物産販売も予定しております。又、6月末の「ぶどうの袋かけ」9月末の「ぶどうの収穫」の手伝い体験のお誘いもあっております。皆様の積極的な参加をお待ちしております。



～ 参加しませんか～

ぶどうの袋かけは6月30日（日）にあります。参加希望者は21日までに公民館にご連絡ください

箱崎四方山話 (六)

随分古いことだが、かつて郷土史家の筑紫豊先生が、「箱崎党の寄合いばしうや」と云われたことがあった。結局、集まる機会は無いままだったが、今日でも日常的会話の中に、よく箱崎党の名が出るが多い。筑紫先生も箱崎党の子孫である筈の多くの若者に訊ねても、殆んど知っていないと云うことだったが、具体的には私自身も詳しくは知らない。それでは箱崎党とは一体なんであろうか。

何時ごろ存在していたかは、筑紫先生の話から考えると、戦国の世から、徳川時代初期ごろまでは續いていたのであろうと思われる。この頃管崎宮座主法院芳清（立花宗茂公の夫人、ぎん千代様の兄）を党首とした箱崎の自衛団があつて、立花方に属して活躍したといわれる。千騎とも二千騎とも云われたこの集団が箱崎党である。箱崎党に関する記事が出るのは「橘山遺事」という本であり、これは立花道雪、高橋紹運両将の活躍ぶりを記したもので、外に参考文献なども多く集め、豊後の大学者、帆足万里が漢文で纏めたものを、さらに門人の柳河人岡弘道が校訂し、安政二年（一八五五）に改刻出版したといわれる全五冊の和本である。この本や「豊前覚書」に箱崎黨の名が出てくる。箱崎黨は秀吉の箱崎滞陣や博多再興に功があつたと云い伝えられている。

神屋宗堪などの要請により、博多再興を約した秀吉は、天正十五年六月七日管崎宮参詣のあと、拝殿を本営として再興に着手、町割企画元締を黒田官兵衛（孝高）如水に命じ、担当の五大奉行が拝殿に参集協議した。

小西行長、浅川三郎兵衛、長束才蔵、石田三成、山崎志摩守など大物武将が名を連ねている。

博多再興の手初めに秀吉の命をうけ、大閤の博多町割の基礎となる焼跡整理に出かけ活躍したのが箱崎党。その子孫であるわれわれは、その四〇〇年後、今度は自分たちのふるさと箱崎のまちづくりに意欲を燃やしている。

（古田篤治）

箱崎党

